

2024年 春号
通巻 No.309

Number

7

ナンバーゼロ

Spotlight on Civic Action
and Volunteering

ゼロ

川崎で、グッド・アクション!

かわさき市民活動センター | ボランティア・市民活動情報紙

川崎市内のボランティア・市民活動は

<http://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/>

コーダードジョー 武蔵小杉

創造する
喜びを感じよう。

子どもに楽しいと感じてもらうには
まず、大人が楽しんでいる姿を見せることが大切です

今号のカバーSTORY

CoderDojo武蔵小杉 代表 田中 章愛 たなか・あさちか さん 中原区在住

CoderDojo (コーダードジョー) とは、プログラミングを学ぶ「場」と「機会」を子どもたちに無料で提供する、アイルランドから広まった世界規模のボランティア活動です。子どもたちが、有志で参加するエンジニアやデザイナー、学生、研究者などに会える場でもあります。世界で2千以上、日本でも190以上*の「Dojo (道場)」が、賛同する人々によって各地で開かれています。年に一度の「DojoCon」では日本中のDojoが交流し、ワークショップを開催したり互いの知識を共有します。田中代表は現役のロボットエンジニア。武蔵小杉のDojoでは小学生ロボコンに挑戦もできるほか、マイクラフトやスクラッチなどを使って、みんな自分の好きな作品作りを思いっきり熱中して楽しんでいます。「一度でもここに来た子が、ものづくりは楽しいと感じたり、近い将来プログラミングやAIを使いこなしてくれれば嬉しいです」という田中代表。活気溢れるCoderDojo武蔵小杉と、田中章愛さんや仲間たちについては、U-50をお読みください。

U-50

インタビュー/コラム形式で、川崎市NPOで活躍する若手エースを紹介しています。ホームページに連載を掲載中!



◀アンダー50の連載はこちら

意外と知らないことばかり？ 大丈夫！
みんな、活動しながら知識が増えていくのです。



(特定非営利活動法人)

NPO法人ってなに？

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災では、市民のボランティア活動が復興に向け力を発揮しました。ボランティア活動への関心の高まりを受け、市民の自発的な活動を活性化するための環境整備として、特定非営利活動促進法(=NPO法)が1998年3月に議員立法により成立し、NPOが「法人格」を取得できるようになりました。特定非営利活動法人(=NPO法人)とは、NPO法が定めた要件によって設立された、不特定かつ多数のものの利益のために活動する団体のことです。活動の種類は「特定非営利活動」として20種類が規定されており、幅広い範囲を網羅しています。

NPO法人になる最大のメリットは、個人ではなく法人として契約や取引を行えること。わかりやすい例では、法人として契約して事務所を借りることができます。その一方で情報公開や税など、法人としての義務や負担も生じます。自由度が高い任意団体のほうがフィットする活動も多くあります。NPO法人の設立にあたっては、なぜ法人化するのかを、団体のメンバーでしっかりと検討することが大切です。設立するためには、都道府県や政令指定都市(=所轄庁)の認証が必要です。認証されたら2週間以内に法務局で「法人設立登記」をして、NPO法人となります。

【知っておきたいポイント】

- NPOとは「Non-Profit Organization」の略で、任意団体やボランティア団体などの営利を目的としない組織全般のこと。
- 事務所が川崎市内のみの場合は、政令指定都市である川崎市に設立認証申請書を提出します。川崎市は予約制で申請書類の作成に関する相談も受けています。

【こちらもチェック!】

- 「特定非営利活動法人(NPO法人)制度とは」(川崎市) NPOやNPO法人について分かりやすく書かれています。

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/32-7-6-1-0-0-0-0-0-0-0.html>



※センターでも紙版を配架中

- 「NPO法Q&A」(内閣府NPOホームページ)

NPO法人の設立、管理運営や認定制度等を紹介しています。Q&A方式で読みやすいですよ。

<https://www.npo-homepage.go.jp/qa>



法人格を取得した団体に、インタビュー!

特定非営利活動法人かわさき子ども食堂ネットワーク

<https://kawasaki-kodomoshokudo-nw.jimdofree.com/>

2018年に任意団体としてスタートした「かわさき子ども食堂ネットワーク」が、この2024年1月に特定非営利活動法人(NPO法人)として認証されました。理事長の佐藤さん、副理事長の佐野さんも、それぞれ子ども食堂を運営しています。市内の子ども食堂運営者が集まり、みんなで困りごとの解決や情報の共有ができればいいな、という思いで開始しました。子ども食堂の運営をサポートする中間支援団体として、食品衛生に関する勉強会を開催するほか、企業からの支援を分配する仕組みをつくり、実際に調整して運送を手配しています。現在、ホームページに掲載を希望する子ども食堂は43か所*に増え、誰もがまとまった情報を閲覧することができます。理事長の佐藤由加里さん、副理事長の佐野めぐみさん(以下敬称略)にお話を伺いました。



(写真右)
理事長・佐藤由加里さん

(写真左)
副理事長・佐野めぐみさん



NPO法人設立のお手続きが無事終了したとのこと、皆さまお疲れさまでした。早速ですが、「子ども食堂ネットワーク」の開始にあたって課題だと捉えていたことから教えてください。

佐藤 2018年当初の課題は、「運営者の共通の悩み事や困りごとは何か?」「お互いに助け合えることはないか?」といった、意見交換をする機会が無いことでした。現在の課題は、寄贈品の受取場所や配送といった流通や経路の手配ですね。

活動が軌道にのった、あるいは拡大してきたと実感した時期はありますか?

佐藤 子ども食堂がメディアで取り上げられ、2018年頃より食堂を開始する団体が増加傾向にありました。その後、コロナ禍を機に寄贈品の申し出が増えて、その対応の必要性が高まった2019年末頃から、団体の活動が拡大しました。

では、法人化を検討し始めた時期もその頃ですか?

佐藤 いえ、法人化自体は活動開始当初からの検討事項だったのです。私たちの場合、まずはNPO法人用の会計ソフトを導入しました。2020年に企業からの寄贈の申し入れが増えたこともあって、本格的に法人化に向けて動き始めました。

複式簿記を早期に採用していたのですね。寄贈が増えたことが法人化に結びつきましたか?

佐藤・佐野 はい。DeNA川崎プレイブサンダースや川崎フロンターレ及びそのパートナー企業からの支援がスタートし、契約書の締結等が必要になってきたことが大

きな理由です。

まさに、法人として契約を行うことが必要になったのですね。ところで法人設立手続きで大変だったことはありましたか?

佐藤 申請書類の種類が多いことと、慣れない法律用語での作成が大変でした。川崎市の市民文化局担当課には、申請書類について、きめ細やかなサポートをしていただきました。特に住所表記や住民票に登録されている漢字などは、「えーっ そうなの!?!」と、私たちが気づかないことも多く、丁寧な伴走支援をしてもらって大変助かりました。

最後に、NPO法人となったことでの期待や、描いている実現予想図などを教えてください。

佐藤・佐野 法人格を取得し、その事業を明確にすることにより、社会的な信頼が得られると感じています。今後は更にもっと、子ども食堂実践者に支援の輪が広がるように、条例指定や認定の取得を目指していきたいと考えています。

色々お話ししていただきまして、本日はありがとうございました。



寄贈品を仕分けするのでも大切な役目

企業から大量の食品が届き、送付準備をして配送業者を手配する佐藤さん。各子ども食堂へと配分します。

ご存知ですか？
寄附金控除

認定・条例指定NPO法人に寄附をすると
最大50%の税金が軽減されます。

▼認定NPO法人ってなに？

法律で定められた要件を満たし、運営組織や事業活動が適正で、公益の増進に資する法人だと所轄庁（県知事や政令市長など）に認められたNPOのことです。認定NPO法人制度には、寄附金控除をはじめとした様々な税制上の優遇措置があります。

▼条例指定NPO法人ってなに？

認定は全国共通の基準ですが、条例指定は所轄庁が独自の基準を定めています。NPO法人を条例で個別に指定することによって、個人住民税に限って寄附者が税制上の優遇措置を受けられるようになります。条例指定NPO法人になることで、認定の基準を満たしやすくなるという法人側のメリットもあります。

▼どのくらい軽減されるの？

川崎市民が川崎市の認定NPO法人に1万円寄附すると、最大4千円の税金が軽減されます。

川崎市の認定・条例指定NPO法人から、2団体を紹介

認定NPO法人 キーパーソン21

<https://www.keyperson21.org/>



「すべての人が自分を活かしていきいきと仕事をして生きる」という私たちの描く理想の社会を目指し、子どもたちに向けて学校や教育施設、企業、行政、地域の皆様と連携し、オリジナルの『夢！自分！発見プログラム』を展開しています。子どもたちは友だちや様々な大人と対話することで、自信や希望、やってみたくことが湧き「わくわくする自分からはじまる」と気づいて動き出します。子どもたちに接した大人たちも、子どもたちを応援しながら自分を見つめて新たな気づきを得ます。関わった誰もが一歩を踏み出す活動です。

●応援ポイント！● 持続的に子どもたちにプログラムを届けていくこの活動に、ぜひご寄附をお願いいたします。また会員として「夢！自分！発見プログラム」の“わくわくナビゲーター”となり活動していく仲間も大募集中です！

認定NPO法人 療育ねっとわーく川崎

<https://www.ryouikunet-kawasaki.com/>



病気や障害があっても、家族に囲まれ地域での生活を豊かに過ごすこと、そして家族もまた一人の人間として豊かな生活を送ること、この二つを両立させるためには、家族全体を支える地域の力が必要です。一人ひとりの生活を豊かにするケアを家族だけに任せない、そんな地域の力を集める場所、これが療育ねっとわーく川崎です。

障害のある方も含めて、誰もが地域であたりまえに生活できるよう、相談をはじめとして、さまざまな支援を行うとともに、関わる人との幅広いネットワークを活動の柱にしています。

●応援ポイント！● 気軽に立ち寄っていただけるカフェも登戸で開いています。ぜひ賛助会員になっていただき、豊かに暮らせる地域を目指す活動にご参加ください。



川崎市の他の認定・条例指定NPO法人は、市ホームページ「NPO法人への寄附をお考えの方へ」で確認できます。認定NPO法人に関する寄附金控除以外の様々な税制優遇についても、詳しくはこちらをご覧ください。
<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000149763.html>

REPORT

専修大学の大学生×市民活動団体 協働で伝えるメディアを制作

<http://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/daigaku/>

2010年度から開始したかわさき市民活動センターと専修大学ネットワーク情報学部の連携事業。2年生の応用演習として学生たちが約半年間かけ、市民活動団体のホームページ・動画・三つ折りリーフレット（団体ロゴも！）を制作します。2023年度の参加団体は9団体。2月5日「かわさきNPO映像交流会」での成果発表では全員が完成を喜びました。各広報媒体をともに制作することで、学生は社会課題の理解を深め、団体は活動を「どう伝えるか」を考える良い機会となっています。

（参加団体）Kids Music Community、チームフランボネ、はじめてのペーリトミック、川崎むすびの会、ダンス・ピクニック、まちなみ座談会、あゆみYELL、スイーツファンド、KAWASAKI夢フェスタ事務局



三つ折りリーフレットは
活動センターにも配架しています

令和6年能登半島地震の 被災地支援等について

1月1日に発生した令和6年能登半島地震により被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。皆さまの安全と一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

活動センター受付に募金箱を設置しました。赤十字を通じて、支援金「ポラサポ・令和6年能登半島地震」へ送付いたします。





親子で学ぶ多摩川のお天気と防災

2023年12月3日宮内こども文化センターにおいて、特定非営利活動法人水・防災機構の主催で「親子で学ぶ多摩川のお天気と防災」として、講義とワークショップが実施され、13組の親子が参加しました。

宮内こども文化センターの地域は、2019年台風19号により多摩川が氾濫し、地域が浸水する等大きな被害を被った地域でもあります。

まず初めに大学教授・知花武佳先生により、洪水と防災の講義及び河川の模型を用いた実験をしました。現在の宮内こども文化センター付近の地図から、昔の地図と比較すると川の位置が現在と異なり、「等々力地区」は洪水等により次第に河川の位置が変化していったこと、「等々力」は多摩川をまたいで2か所に位置するようになったことなどを学びました。その後、実際に砂(粒子の荒いもの・細かいもの)を敷き詰めた川の模型を使って、子どもたちはどこが安全かグループごとに考え、相談しながら川辺に家屋・橋を設置しました。模型に水を流すと砂の荒さによって、土地の崩れ方に違いが現れ、水量が増えると、橋と家屋が流され

ました。水はけがよい土の方が大雨に耐えられると知花先生から聞き、川幅を広くするとその分水も溜まらず流れていくことが目に見えてわかり、楽しみながら洪水時の水の変化と防災の必要性を体感することができました。

次に気象予報士・澤井明子さんによる天気不思議を学ぶワークショップを実施しました。最初に装置を用い、気圧によって雲ができる仕組みを学び、その後「星がはっきり見える日の翌日は晴れる」という「観天望気(かんてんぼうぎ)」の説明を受け、手元のワーク

シートの夜空に星を貼り付け絵本のような「観天望気の本」が完成しました。スライド上映、実験、工作といった多角的なアプローチにより子どもたちの興味が深まっていき、身近な多摩川が取り上げられたことで、子どもたちと保護者の関心も引くことができました。アンケートからは、「ぼうさいや天気がよくわかり、土のかたさで洪水がちがうということがわかりました(参加者)」や、「身近な話から入り、とても興味を持った様子でした。次に多摩川に遊びに行った時が楽しみです(保護者)」という声がありました。



*こぶんたは、当財団が管理運営するこども文化センター 41 施設のキャラクターです。 *わくりんは、当財団が管理運営するわくわくプラザ 76 施設のキャラクターです。

かわさき市民活動ポータルサイトへ応援ナビかわさきへ

お知らせ

VN2024
【ボラ・ナビ】

川崎市内のボランティア情報なら、「ボラ・ナビ」!

<https://kawasaki.genki365.net/looking/>

ボラ・ナビ 2024 冊子版(川崎市社協発行・センター共同編集)に掲載のボランティア情報は、ポータルサイト「応援ナビかわさき」の「募集」ページにも載っています。冊子は館内に配架予定です(配布は数に限りがあります)。

カレンダー

活動センター 4～6月の主な予定、休館日

4/7 日 【助成金】 2023 年度助成金公開事業報告会
(フリースペース利用不可)

4/15 月 【休館日】

5/18 土 【助成金】 2024 年度助成金
公開プレゼンテーション
(フリースペース利用不可)

5/19 日

5/20 月 【休館日】

※4/29、5/3～5/6の祝日は夜間閉館

6/17 月 【休館日】

パワーアップセミナーやイベントの開催情報は、随時 HP で公開します。トップ画面の最新ニュースをチェック! チラシも随時配布します。

ご案内 MAP

かわさき市民活動センター(中原市民館と同じ建物)



ナンバーゼロ 2024年春号(通巻No.309)

【編集・発行】

公益財団法人かわさき市民活動センター 市民活動推進課

〒211-0004 川崎市中原区新丸子東3-1100-12

電話:044-430-5566 FAX:044-430-5577

メール:suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp

WEB: <http://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/>



ポータルサイト「応援ナビかわさき」
<http://kawasaki.genki365.net/>